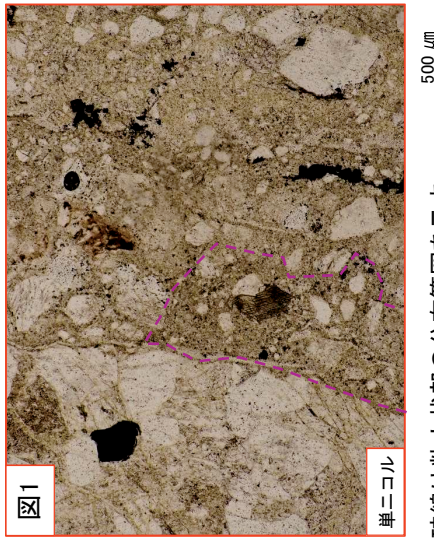
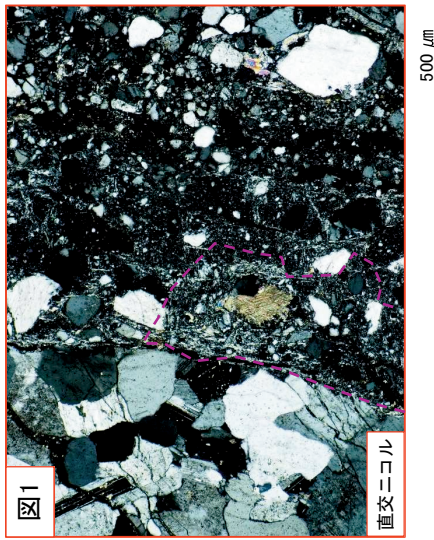
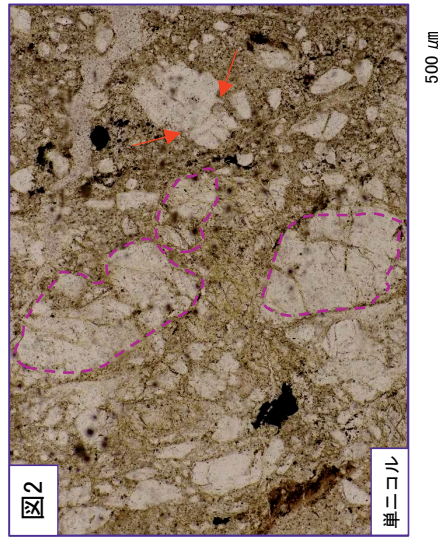
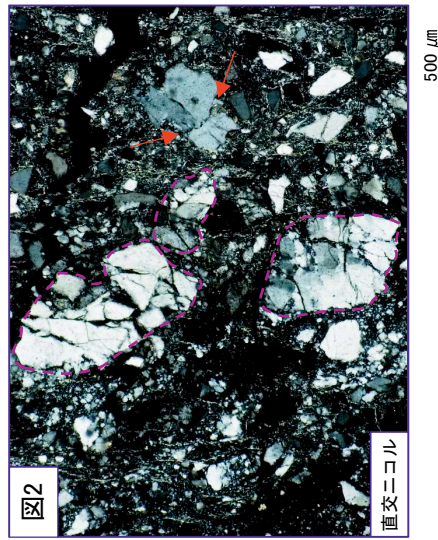


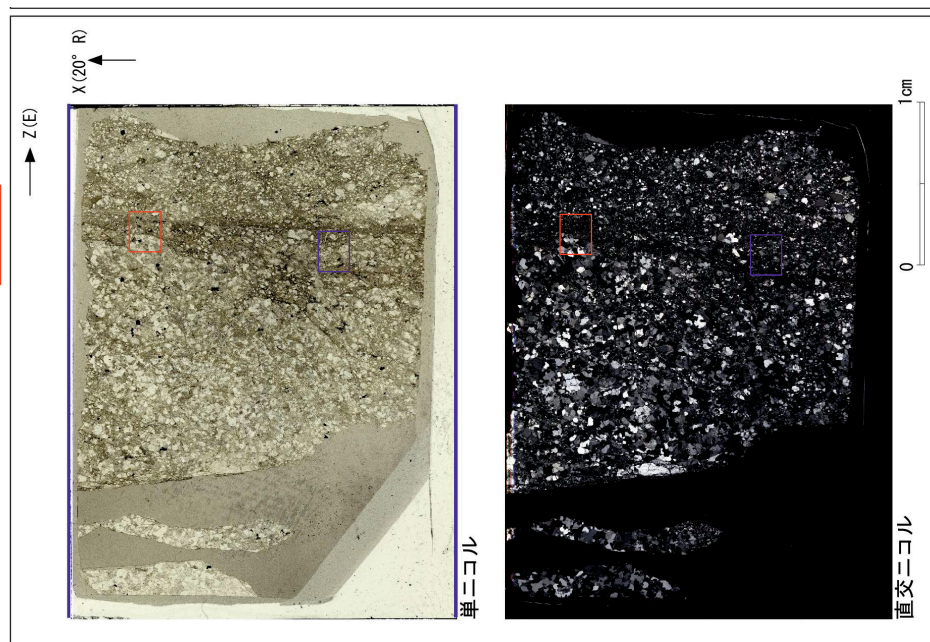
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す
破線部はジグソー状の角礫群の範囲を示す



第7.4.4.307図 (4) 破砕部性状 H24-B14-2 深度101.47~101.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度101.50m)

- 肉眼観察では、粘土質砂状部は、やや硬質で、含まれる細粒部は下端のフィルム状の細粒部を除くと網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土質砂状部のやや硬質な細粒部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度105.54～105.61mの「シルト混じり砂礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は局部的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●105.54～105.61m：破砕部
シルト混じり砂礫状部 (HJ)
上端45°、下端45°、ともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰色白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリーブ灰色を呈する。

コア写真



凡例
← → 破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載

細粒部は局部的に分布する

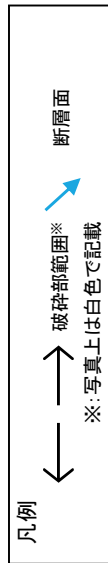
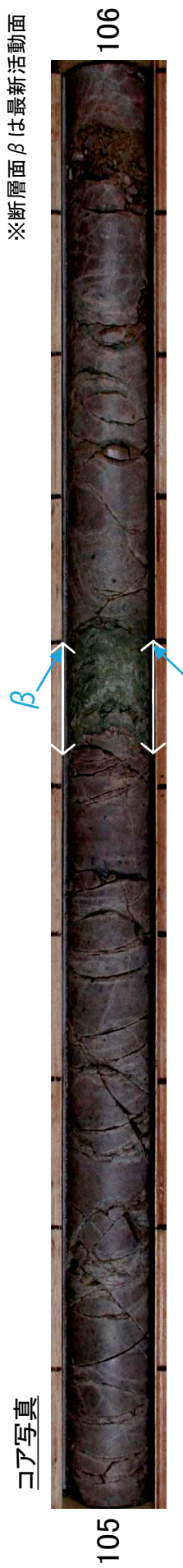


青枠部拡大

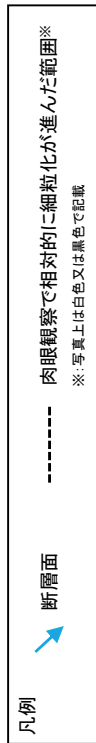
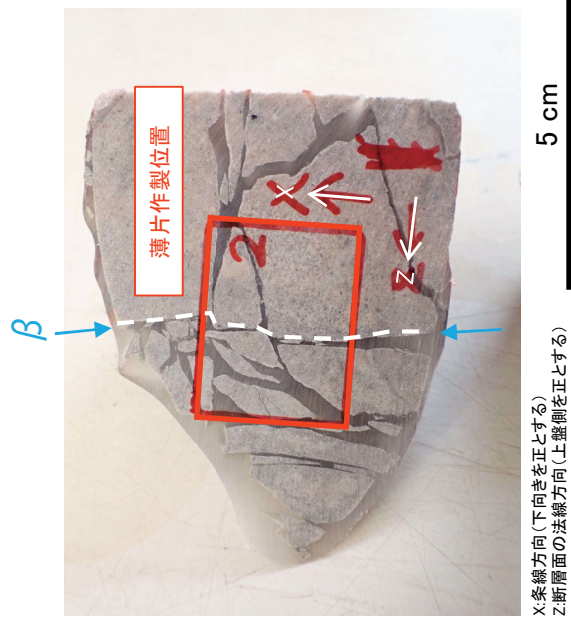
0 5 cm

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

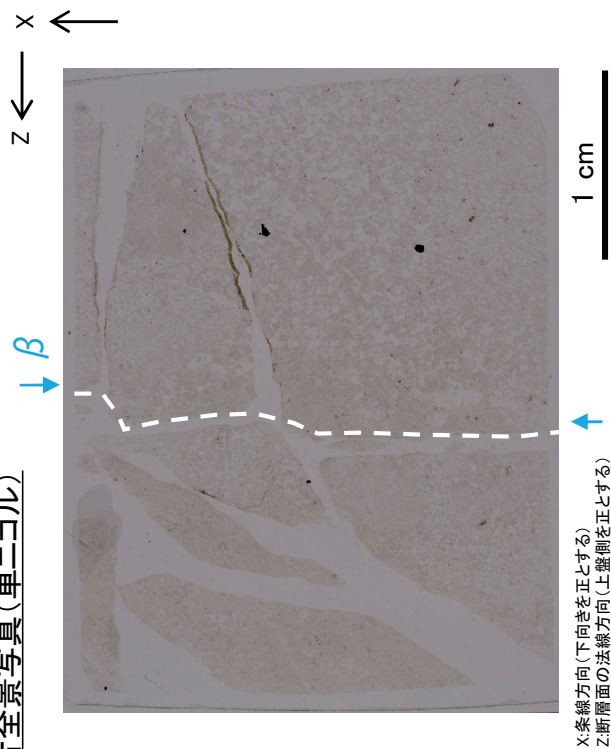
コア写真



薄片作製位置写真



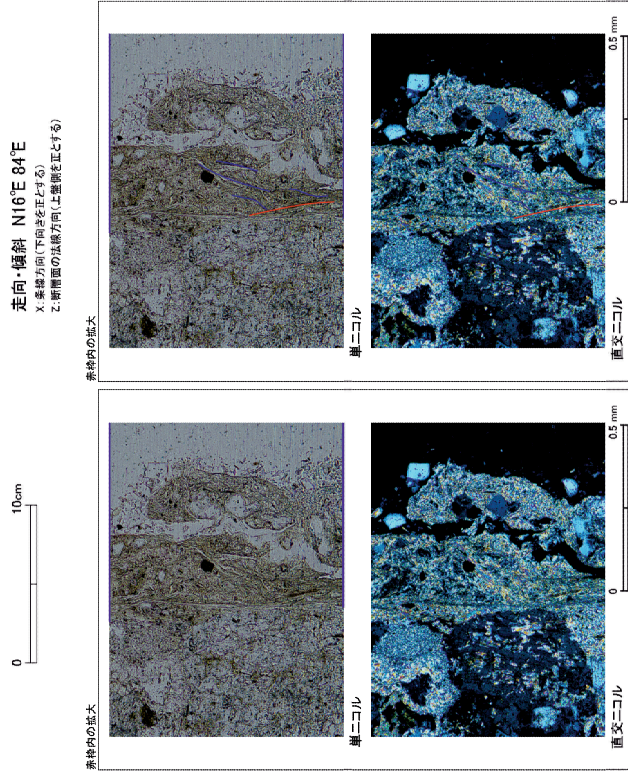
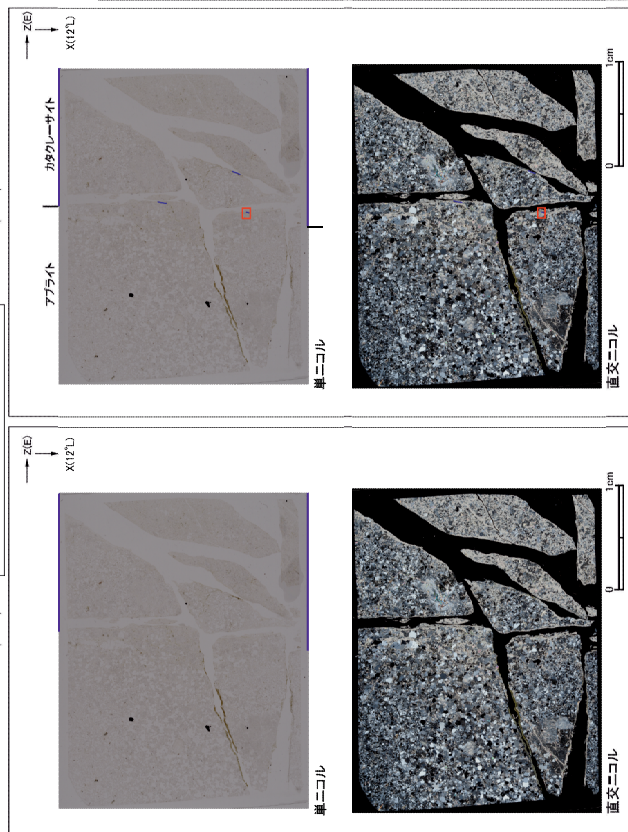
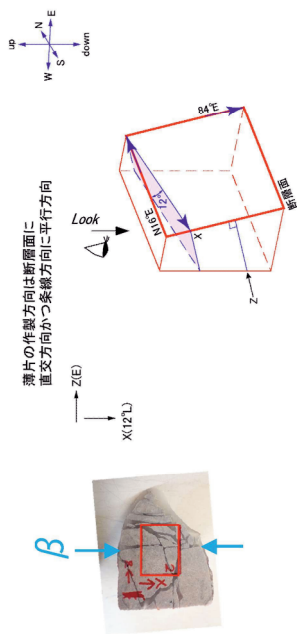
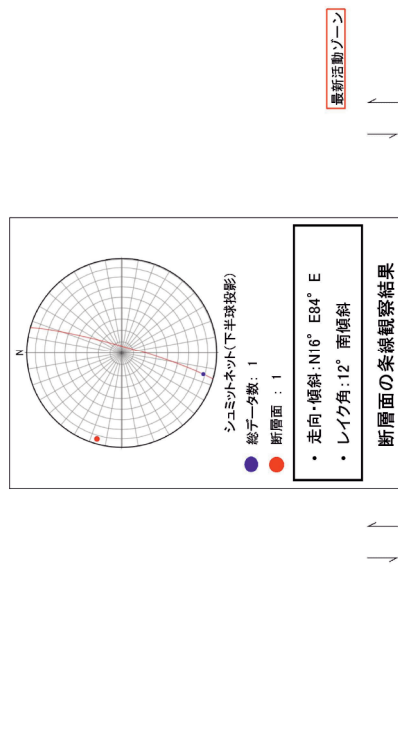
薄片全景写真(単ニコル)



・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトののみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 岩片量は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

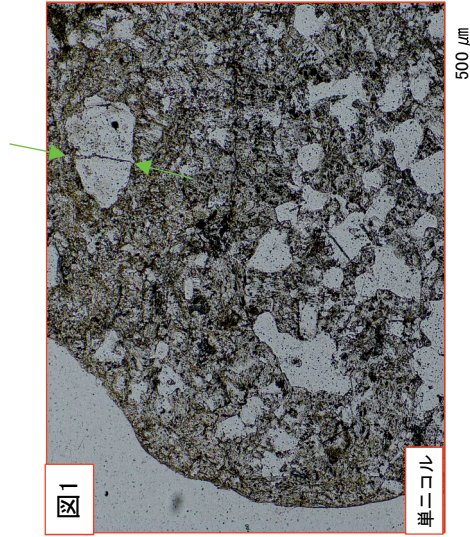
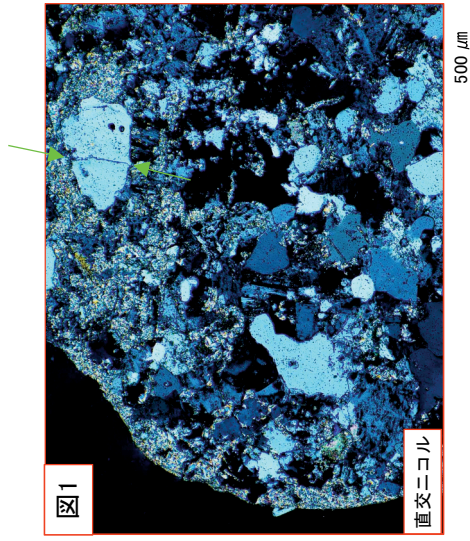
※断層面βは最新活動面



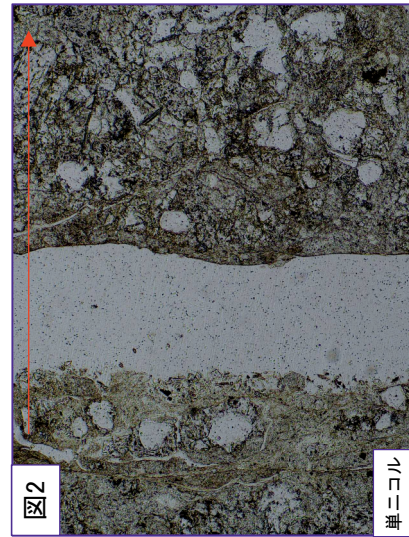
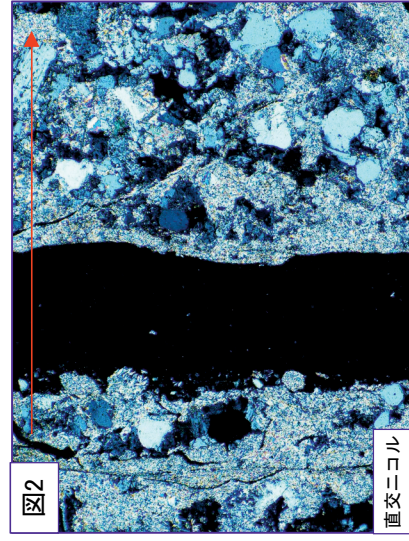
凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面

第7.4.4.308図 (3) 破砕部性状 H24-B14-2 深度105.54~105.61m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

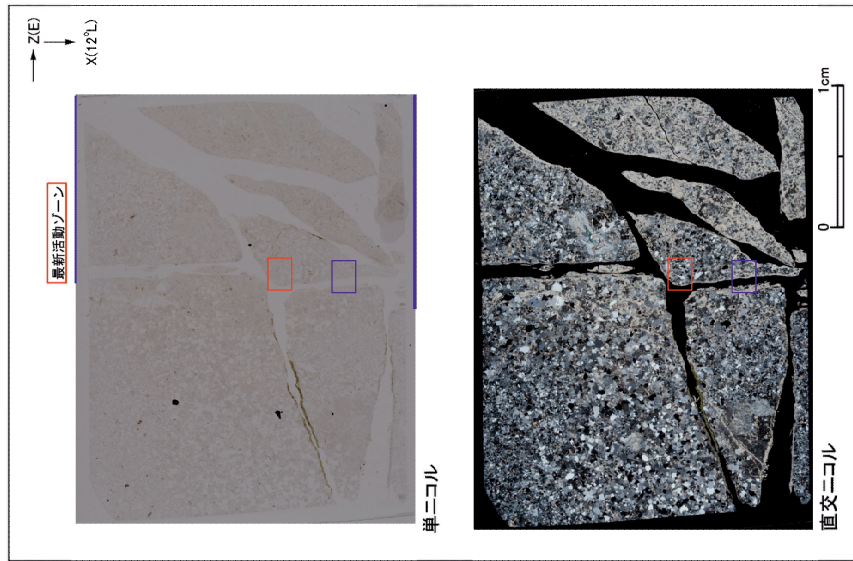
- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 岩片量は漸移的に変化する。(図2)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)



緑矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

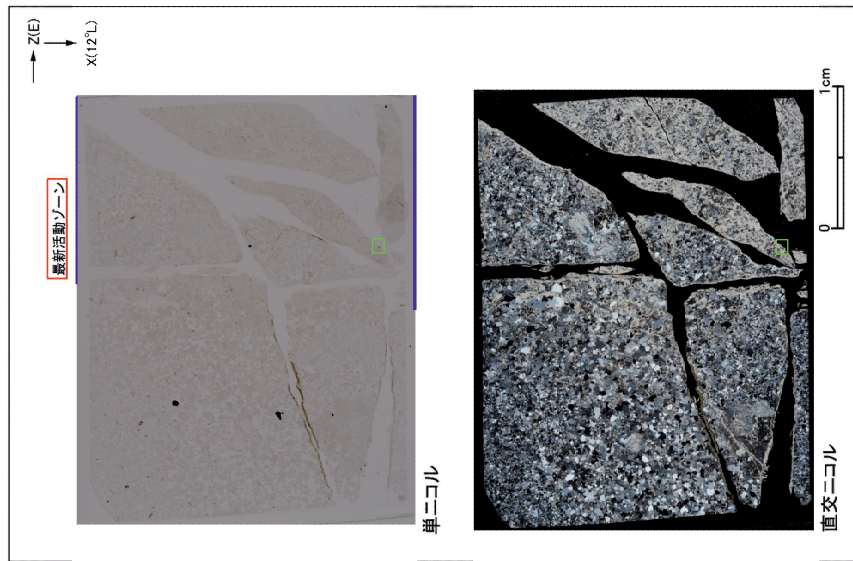


赤矢印:岩片量は漸移的に変化する

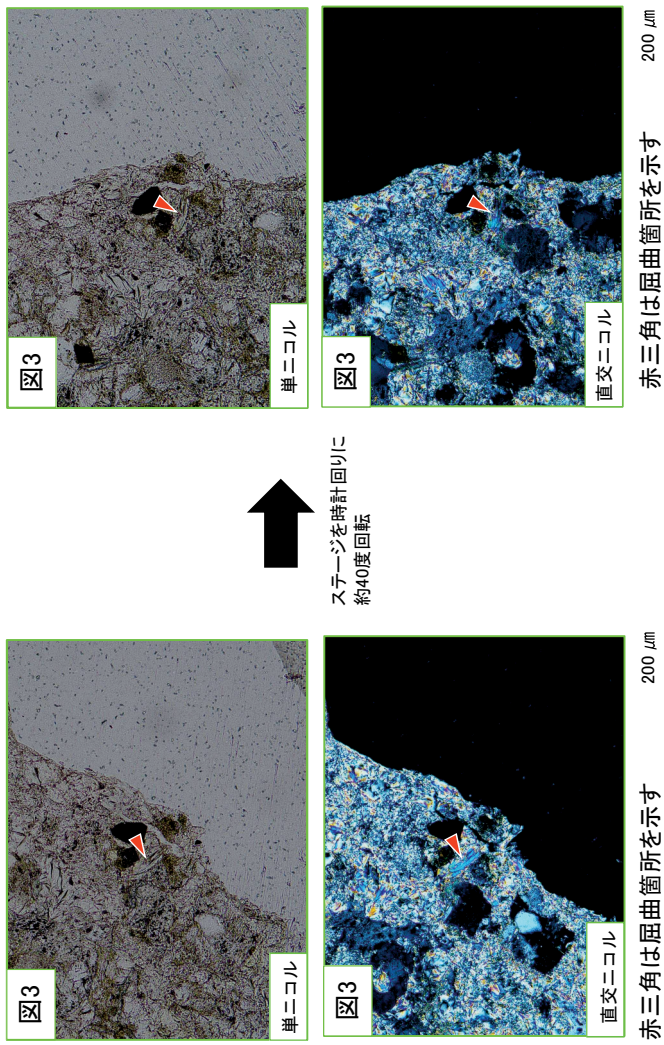


第7.4.4.308図 (4) 破碎部性状 H24-B14-2 深度105.54~105.61m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



↑
 ステージを時計回りに
 約40度回転

赤三角は屈曲箇所を示す

赤三角は屈曲箇所を示す

(肉眼観察位置 深度105.61m)

- 肉眼観察では、シルト混じり砂礫状部は、硬質であり、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められることからカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 β に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 β は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 岩片量は漸移的に変化する。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認されたシルト混じり砂礫状部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	-	-

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。